

# 華嚴より那智へ行くべし群青忌

## 藤田湘子

私は「華嚴の滝」へは鷹吟行会で行ったが、「那智の滝」へはまだ行ったことがない。この句を読み返す度に、行くべきか行かざるべきかと悩んでしまう。

つまり、まだ見ぬ「那智の滝」は想像上で神格化され、あまりにも見事であるため、水量の少ない季節や人出が多く雑念の起こりそうな時は避けたいたためである。

湘子の美学からすれば、秋櫻子の忌日七月十七日を「紫陽花忌」とするのだけは避けたかった。『馬酔木』昭和五十六年八月号の「紫陽花や水辺の夕餉早きかな」の「や、かな」問題を、「紫陽花に」の校正ミスと発表すれば良かったのに、と湘子は語っていた。

瀧落ちて群青世界とどろけり 水原秋櫻子

1983年 (s.58.07.15作) 第六句集『一個』 鑑賞・轍郁摩